

A: 計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B: 計画どおり取組ができていないが、十分な成果が出ていない

2024年12月1日時点

目標1 サイクルツーリズムの推進による地域の活性化

措置	実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果				
		(下段) 課題・今後の方向性				
		2023	取組評価	2024	取組評価	
1	<p>モデルルートについて、誰もが迷わず、安全安心に走行できるよう充実を図るとともに、地域の消費拡大を図るため、市町村と連携して支線ルートの拡充に取組む。</p>	<p>(モデルルート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境整備が進むつば霞ヶ浦りんりんロード以外のモデルルートについて案内標識等の整備を進めるほか、モデルルートを補完し、より迷わず、安心して走れるコースを検討する。 <p>(支線ルート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各市町村が中心となって設定するまちなか周遊のためのコースについて、各市町村が中心となって設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 奥久慈里山ヒルクライムルート及び大洗・ひたち海浜シーサイドルートを軸とした、はじめての人でも迷わず、安心してサイクリングを楽しめるライドプランを作成し、HPへ掲載した。 奥久慈里山ヒルクライムルートについて、ルート沿線における道の駅や観光施設、サイクルサポートステーション等の拠点施設への案内看板(265基)の整備計画を検討した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> はじめての人でも迷わず、安心してサイクリングを楽しめるライドプランについて、需要の多いサイクリングルートを新規プランとしてHPへ掲載し、利用者のニーズに応じた案内を実施した。 奥久慈里山ヒルクライムルートについては、ルート沿線における道の駅や観光施設、サイクルサポートステーション等の拠点施設への案内看板の整備が完了予定。 大洗・ひたち海浜シーサイドルートについては、ルート沿線における道の駅や観光施設、サイクルサポートステーション等の拠点施設への案内看板(122基)の整備計画を検討した。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 奥久慈里山ヒルクライムルート、大洗・ひたち海浜シーサイドルート共に、更なるライドプランの拡充を進め、地域の消費拡大を図る。 奥久慈里山ヒルクライムルートに引き続き、大洗・ひたち海浜シーサイドルートについても拠点施設への案内看板の整備計画検討に向けて準備中。 令和6年度から案内看板を整備していく予定。 		<ul style="list-style-type: none"> 奥久慈里山ヒルクライムルート、大洗・ひたち海浜シーサイドルート共に、サイクリングの拠点となる施設を増やし、情報発信を行う。 奥久慈里山ヒルクライムルートについて、ルート沿線における拠点施設への案内看板整備を進める。 大洗・ひたち海浜シーサイドルートについても、拠点施設への案内看板の整備計画検討を進める。 奥久慈里山ヒルクライムルート、大洗・ひたち海浜シーサイドルート共にライドプランの拡充・活用による地域の消費拡大を図る。 		
2	<p>豊富な地域資源を生かした体験型ツアーや宿泊滞在につながるイベント等を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用し、県が認定したサイクリストにやさしい宿への宿泊に繋がる、キャンプやサイクリング以外のアクティビティと連携したサイクリングイベント等を企画・開催する。 県内で養成したサポートライダーを活用し、サイクリングイベントやツアー等を推進していく。 今後各サイクリングルートの協議会、地元自治体、民間事業者等で継続できるモデル的な事業を検討実施し、継続した来訪を促し、地域で稼ぐ仕組みづくりを行っていく。 海外の旅行会社やメディア等に対し、豊富な地域資源と組み合わせた自転車旅を提案していく。 訪日外国人旅行者(個人)をターゲットにした、サイクリングツアーの販売促進(OTA含む)に取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> アトレと連携したつば霞ヶ浦りんりんロードを活用したサイクリングイベントを開催支援している。 イベント会社からサポートライダーの派遣依頼に対して、積極的にサポートライダーに情報共有し、マッチングする機会を創出している。 海外の旅行会社等に対し、豊富な地域資源と組み合わせた自転車旅を提案。 台湾の旅行会社からサイクリングツアー造成の話が増えており、11月につば霞ヶ浦りんりんロードでの台湾インバウンドツアーの催行が1件決定している。 タイの旅行会社により本県サイクリングツアーの造成・販売が開始され、2024年10月に催行予定。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アトレと連携したつば霞ヶ浦りんりんロードを活用したサイクリングイベント「いばらきK1ライド2024」の開催を支援した。 いばらき観光キャンペーン推進協議会の地域支援事業として、行方市主催のサイクリングイベント「なめチャリ」(12月1日開催)を支援。 イベント会社からサポートライダーの派遣依頼に対して、積極的にサポートライダーに情報共有し、マッチングする機会を創出している。 サイクリストにやさしい宿の利用促進を目的とした「サイクリストにやさしい宿泊割引キャンペーン」を1月17日から3/23まで実施予定。 海外メディアや旅行会社を招聘し、県内ルート沿線の地域資源を活用したファミツアーを3回催行し、うち1社がツアー造成を行う見込み。 奥久慈里山ヒルクライムルートとトレイルコースの「常陸国ロングトレイル」を組み合わせたイベントをR7秋に開催予定。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、海外の旅行会社やメディア等に対し、豊富な地域資源と組み合わせた自転車旅を提案していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、海外の旅行会社やメディア等に対し、豊富な地域資源と組み合わせた自転車旅を提案していく。 		

目標1 サイクルツーリズムの推進による地域の活性化

A: 計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B: 計画どおり取組ができていないが、十分な成果が出ていない

2024年12月1日時点

	措置	実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果			
			(下段) 課題・今後の方向性			
			2023	取組評価	2024	取組評価
3	つくば霞ヶ浦りんりんロードに県民が愛着を持つことのできる参加型イベント等を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 県内の小中学生の校外学習において活用促進を図る。 地元企業も加入する各ルートの協議会会員を対象としたライドイベントを定期的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校で1校、中学校で1校、校外学習としてサイクリング体験を実施。 霞ヶ浦で環境事業として小学4年生以上の親子をメインターゲットとしたサイクリング学習イベントを実施予定。 スタンプラリー企画、既存のサイクリングアプリを活用した期間型サイクリングイベントを各協議会において実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高校で1校、校外学習としてサイクリング体験を実施。 霞ヶ浦で小中学生を対象とした自転車交通安全教室を実施予定。 つくば霞ヶ浦りんりんロード沿線市町村のご当地キャラを活用したNFTスタンプラリーを実施。 	B
		<ul style="list-style-type: none"> 今後も幅広い年齢層に体験してもらえるイベントを開催する。 今後も協議会会員など地元企業を巻き込んでサイクリングイベントを展開していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後も幅広い年齢層に体験してもらえるイベントを開催する。 今後も協議会会員など地元企業を巻き込んでサイクリングイベントを展開していく。 		
4	茨城空港周辺や道の駅、鉄道駅等のサイクリング拠点化に向け、更なる機能充実（シャワー、レンタサイクル、手荷物配送、サイクルラック等）を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 空港や道の駅、鉄道駅、休憩所等のサイクリング拠点化に関する構想（拠点施設の賑わいづくり、キッチンカー等による飲食販売、かわまちづくり計画を活用したイベント実施、レンタルサイクル、シャワー・更衣室、サイクルラック機能を備えたワゴンの設置等）を検討し、関係機関、市町村と協議・調整を進めるほか、民間企業への働きかけを行う。 広域レンタサイクルの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城空港におけるサイクルスタンド、更衣室の適切な維持管理 茨城空港ホームページに「MY自転車で行くつくば霞ヶ浦りんりんロード」を掲載し、就航先のサイクリストへ空港発のサイクリングをPR。 つくば霞ヶ浦りんりんロード休憩所について、賑わい創出等に向けて民間活力の導入による利活用を検討中。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 茨城空港におけるサイクルスタンド、更衣室の適切な維持管理 茨城空港ホームページに「MY自転車で行くつくば霞ヶ浦りんりんロード」を掲載し、就航先のサイクリストへ空港発のサイクリングをPR。 茨城空港近接の「空の駅そ・ら・ら」において、サイクリング拠点施設として必要な（シャワー、レンタサイクル、手荷物配送、サイクルラックの設置等）を満たす施設の整備を補助し、支援した。 つくば霞ヶ浦りんりんロード休憩所について、独自の賑わい創出等に向けて引き続き利活用を検討する。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 「小美玉市まちづくり構想」の実現に向けて市と連携しながら、空港周辺のサイクリング拠点化に向けた取り組みを推進する。 利活用の参入意向がある事業者に対して、ヒアリングを進める。 		<ul style="list-style-type: none"> 「小美玉市新まちづくり構想」の実現に向けて市と連携しながら、空港周辺のサイクリング拠点化に向けた取り組みを推進する。 休憩所の一部を活用し、民間活力導入による賑わい創出等を図る。 		
5	地域特性を踏まえた各サイクリングルート推進体制（協議会等）間の連携強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> サイクリングいばらきHPにおいて、各ルートの情報を一元的に発信していくほか、先進事例調査として他のルート試走会等を通じて、協議会間の連携強化を図る。 協議会ごとにルートの特性に基づくアクションプランの設定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトにおいて各ルートの情報を積極的に情報発信を続けているほか、サイト内の情報や見せ方を整理してより見やすくするため改善を図った。 各ルートのエリア毎の特性を活かし、誰もが目的ごとに分かりやすく走れるライドプランのページを公開した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 11/22にサイクリスト目線で見やすく、使いやすくし、ポータルサイト全面リニューアル実施した。 県内各ルート沿線のおすすめスポット・グルメ情報がまとまり、おすすめスタートポイントを充実させ、サイクリングのプランニングが簡単に楽しくできるよう改善を図った。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 今後も積極的な情報発信や地域特性を活かしたルートの提案を行うよう模索を続けていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後も積極的な情報発信や地域特性を活かしたルートの提案を行うよう模索を続けていく。 ポータルサイトの「ライドプラン」と「サイクリストにやさしい宿」の検索機能を充実させ、見やすく探しやすいページにリニューアルを行う。 		

目標1 サイクルツーリズムの推進による地域の活性化

A: 計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B: 計画どおり取組ができていないが、十分な成果が出ていない

2024年12月1日時点

措置	実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果 (下段) 課題・今後の方向性				
		2023	取組評価	2024	取組評価	
6	<p>県内の最新サイクリング情報について、発信力の充実、強化を図るとともに、SNSやデジタルマーケティング等によるデータの収集と効果的な情報発信に取組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> テレビや新聞など各種メディアへの情報提供や、いばキラTVでの動画配信・SNSを活用したPRを実施する。 県の外国語版ホームページ及びフェイスブック(英語、繁体字、タイ語、ベトナム語、韓国語)等による海外向けの情報発信を行う。 セグメント分けした各ターゲットに対するプロモーションやその効果を測定するためのデジタルマーケティング、インフルエンサーの活用等の手法を継続的に導入し、より効果的・効率的な情報発信を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> テレビや新聞など各種メディアへの情報提供により、特に首都圏メディアでの取り上げを図ったほか、SNSでの発信やいばキラTVでの動画配信など、各種広報媒体を活用したPRを実施した。 県の外国語版観光ホームページやSNS (Facebook、Instagram、Wechat、Weibo等) による情報発信を実施。 デジタルマーケティング等によって収集したデータを活用した情報発信を実施。 メディアへの情報提供を積極的に実施し、特に首都圏メディアでの取り上げを図る。 SNSや各種広報媒体を活用した情報発信を推進する。 引き続き、県の外国語版観光ホームページやSNS (Facebook、Instagram、Wechat、Weibo等)、デジタルマーケティング等によって収集したデータを活用した情報発信を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> テレビや新聞など各種メディアへの情報提供を行うとともに、SNSでの発信やいばキラTVでの動画配信など、各種広報媒体を活用したPRを実施した。 県の外国語版観光ホームページやSNS (Facebook、Instagram、X等) による情報発信を実施。 デジタルマーケティング等によって収集したデータを活用した情報発信を実施予定。 引き続き、メディアへの情報提供を積極的に実施し、特に首都圏メディアでの取り上げを図る。 SNSや各種広報媒体を活用した情報発信を推進する。 県の外国語版観光ホームページやSNS (Facebook、Instagram、Wechat、RED等)、デジタルマーケティング等によって収集したデータを活用した情報発信を実施する。 	A
7	<p>レンタサイクル等の導入促進を図るとともに、公共交通との接続強化について検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> まちなかの移動手段や観光施設周辺の周遊観光などで、手軽に自転車の利用ができるようにまちなか施設や駅前等へのレンタサイクル施設の導入を市町村に対し働きかける。 レンタサイクルの情報発信のほか、利用者にとってメリットとなるモデルケースの紹介を通じて、普及を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> レンタサイクル利用者(サイクリング初心者)向けに自転車の乗り方動画や、初めてのサイクリングモデルコースを紹介し誰もが乗りやすい環境整備を進めている。 鉄道の利用促進に向けて、駅周辺のレンタサイクル情報を収集し、県HPで情報発信を行った。 水戸市と連携し、偕楽園公園表門前(1箇所:2024年2月)及び、弘道館公園大手門広場(1箇所:2023年4月)にシェアサイクルポートを設置済み(水戸交通政策課) ※(参考)以下、2022年度以前の実績 砂沼広域公園内に、シェアサイクルポートを2箇所設置済み レンタサイクル施設の導入や整備に関する補助事業活用を引き続き市町村に働きかける。 引き続き駅周辺のレンタサイクル情報を収集し、情報発信を行っていく。 市町村等の行うレンタサイクル事業について、都市公園内へのポート設置等の協議があれば、公園利用促進の観点を踏まえ適切に対応する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> レンタサイクル利用者(サイクリング初心者)向けに自転車の乗り方動画や、初めてのサイクリングモデルコースを紹介し誰もが乗りやすい環境整備を進めている。 水戸市と連携し、千波公園千波湖周辺にシェアサイクルポートを1箇所設置。(水戸交通政策課) 今後、市町村交通政策部局からポート設置等の協議があった際は、公園利用促進の観点を踏まえ、積極的に対応する。 鉄道の利用促進に向けて、駅周辺のレンタサイクル情報を収集し、県HPで情報発信を行った。 レンタサイクル施設の導入や整備に関する補助事業活用を引き続き市町村に働きかける。 引き続き駅周辺のレンタサイクル情報を収集し、情報発信を行っていく。 	A

目標1 サイクルツーリズムの推進による地域の活性化

A: 計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B: 計画どおり取組ができていないが、十分な成果が出ていない

2024年12月1日時点

	措置	実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果 (下段) 課題・今後の方向性			
			2023	取組 評価	2024	取組 評価
8	鉄道・高速バスにおける輸送環境・サービスの向上を目指し、サイクリストやサイクルバスの本格運行を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者に対し、サイクリストやサイクルバスの本格運行に向けた働きかけを行うとともに、その取組を支援する。 複数の交通事業者におけるサイクリストやサイクルバスの取組を連携させ、広域的な取組となるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> JRデスティネーションキャンペーンにより、10月から期間限定で土日限定でサイクリストレインを実施。 JR水戸支社に対して、サイクリストレインの運行・発着駅の拡充を要望し、茨城DCにおける常磐線でのサイクリストレインの運行や、水郡線での発着駅の拡充が図られた。 水郡線のサイクリストレイン情報について、県HPやSNSで情報発信を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> JR水戸支社に対して、サイクリストレインの運行・発着駅の拡充を要望し、水郡線での発着駅の拡充が図られた。 水郡線全線開通90周年事業の一環として、水郡線サイクリストレインを活用したサポートバス運行を実施し、サイクリストレインに対するニーズ調査を実施した。 水郡線のサイクリストレイン情報について、県HPやSNSで情報発信を行った。 6月から定期運航開始した常磐線サイクリストレインについて、JRと連携して、運行記念イベントやインフルエンサーを活用した情報発信等を行った。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 来年度のアフターデスティネーションキャンペーンや今後の本格運行を見据え、引き続きサイクリストレインの実施にむけてJRと連携を進める。 JR水郡線サイクリストレインを活用したライドプランを作成し、HPで案内することで利用客数の推進に働きかける。 引き続き交通事業者に対しサイクリストレインの運行等拡充を要望するとともに、サイクリストレインの情報発信を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> アフターデスティネーションキャンペーンや今後の本格運行を見据え、引き続きサイクリストレインの実施にむけてJRと連携を進める。 常磐線サイクリストレインや水郡線サイクリストレインを活用したライドプランを作成し、HPで案内することで利用客数の推進に働きかける。 引き続き交通事業者に対しサイクリストレインの運行等拡充を要望するとともに、サイクリストレインの情報発信を行っていく。 		
9	休憩施設やポケットパークの機能充実や計画的な配置に向けた検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> つくば霞ヶ浦りんりんロード（県道区間）について、引き続き、休憩施設の充実を図る。また、県道以外の区間については、休憩施設の充実を図るよう市町村に働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 虫掛休憩所の改築工事が完了。（2022年） 筑波休憩所を改築工事が完了。（2023年） 	A	<ul style="list-style-type: none"> （仮称）田村ポケットパークについて、工事に着手した。 つくば霞ヶ浦りんりんロード休憩所について、独自の賑わい創出等に向けて引き続き活用を検討する。 	A
			<ul style="list-style-type: none"> かわまちづくり計画に基づき、ポケットパーク等の休憩施設の整備を推進していく。 		<ul style="list-style-type: none"> かわまちづくり計画に基づき、ポケットパーク等の休憩施設の整備を推進していく。 休憩所の一部を活用し、民間活力導入による賑わい創出等を図る。 	
10	多言語対応可能なガイドの養成など、来訪者へのおもてなしや地域の魅力を案内するサポートライダーに必要な知識・能力の維持向上に努めるとともに、その活用を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> サポートライダーを利用したルートの提案及び旅行商品の造成促進を行う。 県内全域で養成したサイクリングガイドに対し、観光マイスター等によるおもてなしや地域の魅力についての案内を学ぶ研修会を開催するなど、質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おもてなし講座」（9/20、10/4、1/17、1/13実施）にサポートライダーが参加。 観光マイスター認定者向けに実施したサイクリング体験研修（10/10実施）において2名のサポートライダーに引率依頼。 おもてなし講座等の開催をサイクリングガイド向けにも周知するとともに、研修会等での講師としての活用を図る。 海外の旅行会社等に対し、サイクリングツアーの造成を促進 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「おもてなし講座」（8/27、9/11、12/20、1/8実施）にサポートライダーが参加し、観光マイスター等によるおもてなしや地域の魅力についての案内を学び、質の向上に努める。 おもてなし講座等の開催をサイクリングガイド向けにも周知するとともに、研修会等での講師としての活用を図る。 海外の旅行会社等に対し、サイクリングツアーの造成を促進 	A
			<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、海外の旅行会社等に対し、サイクリングツアーの造成を促進するよう働きかける。 サポートライダーの研修等を継続的に実施していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き海外の旅行会社等に対し、サイクリングツアーの造成を促進するよう働きかける。 サポートライダーの研修等を継続的に実施していく。 	

目標 2 自転車交通の役割拡大に向けた自転車通行空間の整備

A:計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B:計画どおり取組ができていないが、十分な成果が出ていない

2024年12月1日時点

	措置	実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果			
			(下段) 課題・今後の方向性			
			2023	取組評価	2024	取組評価
1	モデルルートの整備の推進を図る。また、モデルルートを補完し、より安全安心に走行できるコースの設定を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> いばらき自転車ネットワーク計画の整備方針に基づき、案内標識や矢羽根等の路面標示、舗装の修繕等、モデルルートの自転車通行空間の整備を行う。 モデルルートを補完し、より安全安心に走行できるコース及び整備方針を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ルート案内看板や矢羽根等の路面表示について、概成している。 拠点施設への案内看板について整備計画を検討中。 各ルートのエリア毎の特性を活かし、誰もが目的ごとに分かりやすく走れるライドプランのページを公開した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ルート案内看板や矢羽根等の路面表示について、概成している。 奥久慈里山ヒルクライムルートについては、ルート沿線における道の駅や観光施設、サイクルサポートステーション等の拠点施設への案内看板の整備が完了予定。 大洗・ひたち海浜シーサイドルートについては、ルート沿線における道の駅や観光施設、サイクルサポートステーション等の拠点施設への案内看板（122基）の整備計画を検討した。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、案内看板の整備や舗装の修繕などモデルルートの自転車通行空間の整備を進める。 引き続きライドプランの磨き上げを行い、各モデルルートの魅力や充実度を向上させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、案内看板の整備や舗装の修繕などモデルルートの自転車通行空間の整備を進める。 引き続きライドプランの磨き上げを行い、各モデルルートの魅力や充実度を向上させる。 		
2	県で定める自転車通行空間の整備フローに基づき、新設県管理道路の自転車通行空間の整備の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 県で定める自転車通行空間の整備フローに基づき、新設県管理道路について優先順位の高い路線等から順に整備を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備フローに基づき、新設県管理道路について、自転車通行空間の整備を進めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 整備フローに基づき、新設県管理道路について、自転車通行空間の整備を進めている。 	A
			<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、自転車通行空間の整備を進めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、自転車通行空間の整備を進めていく。 	
3	市町村版自転車活用推進計画（ネットワーク計画含む）の策定について支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 市町村版自転車活用推進計画（ネットワーク計画含む）の策定を検討している市町村に対し、必要な助言や資料提供等を行い、市町村の取組を支援する。 市町村版自転車活用推進計画（ネットワーク計画含む）の策定について市町村へ働きかける。 市町村と連携しながら、優先順位の高いところから順に整備を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から引き続き開催された取手市の策定委員会に参画し、5月末に取手市の自転車活用推進計画策定に至った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 土浦市の策定委員会に参画し、令和6年度3月に第2期土浦市自転車のまちづくり構想を策定予定 つくば市の策定委員会に参画し、令和6年度3月につくば市自転車活用推進計画を策定予定。 	A
			<ul style="list-style-type: none"> 8月につくば市の自転車推進委員会の1期目が終了し、引き続き計画策定へ向けて委員会へ参加を予定している。 各ルートの協議会参画市町村に計画策定を呼びかける。 市町村からの個別相談に应对、助言等を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> つくば市の計画策定へ向けて自転車推進委員会へ参加する。 各ルートの協議会参画市町村に計画策定を呼びかける。 市町村からの個別相談に应对、助言等を行う。 	

目標3 自転車事故のない安全で安心な社会の実現

A:計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B:計画どおり取組ができていますが、十分な成果が出ていない

2024年12月1日時点

	措置	実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果			
			(下段) 課題・今後の方向性			
			2023	取組評価	2024	取組評価
1	ライフステージ等に応じた自転車安全教育・啓発を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 県交通安全県民運動推進に係る委員会等を通じ、自転車安全教育に関する事項等について議論・共有し、効果的な教育を推進する。 各種研修会等において、事故事例を示しながら、実態に合った自転車安全教育の充実にも努めるよう依頼する。 幼児から高齢者まで各世代のライフステージに応じた安全教育を推進するため、現在実施している安全教育を体系的に整理し、課題点や改善点を洗い出して効果的な教育を実施するなど、各主体が連携した取組を推進する。 広域レンタサイクル利用者に対し、走行マナーの啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や企業等において自転車シミュレーターを活用した交通安全教室を開催した。 各世代に応じ、実車での安全教室やスクエアードストレイト教育技法を取り入れるなど、ライフステージに応じた自転車交通安全教育を推進した。 初めてスポーツタイプの自転車に乗る人や広域レンタサイクル利用者向けに自転車乗り方ガイドページを作成した。 9月に実施した安全教育指導者研修において、自転車の安全な利用等について、専門家による講義を行った。 広域レンタサイクル利用者に乗り方等を講習するよう各拠点に指導するほか、初心者向けスポーツバイクの乗り方講習動画をポータルサイトにおいて掲出している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校や企業等において自転車シミュレーターを活用した交通安全教室を開催した。 実車の使用やスクエアード・ストレイト教育技法など、各世代のライフステージに応じた交通安全教育を実施。 初めてスポーツタイプの自転車に乗る人や広域レンタサイクル利用者向けに自転車乗り方ガイドページを作成した。 9月に実施した安全教育指導者研修において、自転車の安全な利用等について、専門家による講義を行った。 広域レンタサイクル利用者に乗り方等を講習するよう各拠点に指導するほか、初心者向けスポーツバイクの乗り方講習動画をポータルサイトにおいて掲出している。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 交通ルールや危険予測・回避トレーニングを実践的に学習できる自転車シミュレーターを活用した交通安全教室を継続的に開催。 今後も初心者向けに分かりやすく自転車の乗り方や交通ルール及びマナーの啓発を行っていく。 学校での交通安全教室等の開催を通じ、各学校の実態に合った交通安全教育を行うよう引き続き研修会等で働きかける。 今後もポータルサイトにおいて乗り方や交通安全・マナー等について啓発を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 交通ルールや危険予測・回避トレーニングを実践的に学習できる自転車シミュレーターを活用した交通安全教室を開催する。 今後も初心者向けに分かりやすく自転車の乗り方や交通ルール及びマナーの啓発を行っていく。 学校での交通安全教室等の開催を通じ、各学校の実態に合った交通安全教育を行うよう引き続き研修会等で働きかける。 今後もポータルサイトにおいて乗り方や交通安全・マナー等について啓発を行っていく。 		
2	学校・地域・警察等が連携して、交通安全の視点からの通学路安全マップの作成を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村に対し、様々な研修会等を通じて、安全マップの作成を依頼する。 毎年配付している登下校時の安全についてのリーフレットをデータで配付し、タブレットを活用して安全マップを作成できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月の指導主事等研究協議会において、各小学校にデータで配付しているリーフレットを活用するなどして、通学路安全マップを作成するよう依頼した。 8月に実施した安全教育指導者研修における資料において、効果的な交通安全教育の一つとして、安全マップの作成を紹介した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 4月の指導主事等研究協議会において、各小学校に配信している「通学安全リーダーハンドブック」を活用するなどして、通学路安全マップを作成するよう依頼した。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 2月に開催予定の指導主事等研究協議会において、安全マップ作成について再度市町村に働きかけていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 2月に開催予定の指導主事等研究協議会において、マップ作成について再度市町村に働きかけていく。 		

目標3 自転車事故のない安全で安心な社会の実現

A:計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B:計画どおり取組ができていますが、十分な成果が出ていない

2024年12月1日時点

措置	実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果				
		(下段) 課題・今後の方向性				
		2023	取組評価	2024	取組評価	
3	<p>自動車ドライバー等が、安全な間隔で自転車の脇を通過するよう「思いやり運転」についての意識向上のための広報啓発を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車ドライバー等に対し、「思いやり運転」による道路空間利用の配慮についての意識向上を図るため、県等のホームページなどによる普及啓発を実施する。 ・交通ルールに基づき、自動車や自転車、歩行者がお互いに配慮しながらコミュニケーションをとることにより道路空間を共有するための啓発活動をSNS等を活用し実施する。 ・免許更新の講習会にあわせ、自転車利用のルールやモデルルートに設置した自転車向けの看板等についての啓発を行う。 ・県と連携した啓発活動について市町村、関係団体へ協力を働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全県民運動の推進内容に「他のドライバー、横断歩行者、自転車利用者への思いやりや譲り合いの意識をもった運転を実践する」ことを明示した。 ・茨城県交通安全県民運動推進要綱をHPに掲載するとともに、市町村、関係団体にも配布し、交通安全運動の推進を実施した。 ・ホームページやチラシ、ノベルティグッズ等でサイクリスト向けに自転車安全利用五則について啓発を行っている。 ・SNSで積極的に自転車ルールの啓発について投稿を行っている。 ・サイクリングポータルサイトやSNSにおいても発信を行うほか、拡散を行う等積極的に広報啓発を行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全県民運動の推進内容に「他のドライバー、横断歩行者、自転車利用者への思いやりや譲り合いの意識をもった運転を実践する」ことを明示した。 ・茨城県交通安全県民運動推進要綱をHPに掲載するとともに、市町村、関係団体にも配布し、交通安全運動の推進を実施した。 ・ホームページやチラシ、ノベルティグッズ等でサイクリスト向けに自転車安全利用五則について啓発を行っている。 ・SNSで積極的に自転車ルールの啓発について投稿を行っている。 ・サイクリングポータルサイトやSNSにおいても発信を行うほか、拡散を行う等積極的に広報啓発を行っている。 	A
4	<p>自転車乗車時における適切なヘルメット着用等に向けた幼児や児童・生徒の意識向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村や県立学校等に対して、自転車乗車時のヘルメット着用やライト点灯の指導に努めるよう、通知文や研修会等をととして依頼する。 ・研修会等の際には、ヘルメット着用が有効であった事故事例を示す等して、より具体的な説明を行う。 ・学校で実施している交通安全教室やホームルームの際に、自転車乗車時のヘルメット着用やライト点灯（昼夜間）の有用性について説明し、意識の向上を図る。 ・各季交通安全運動等の機会を捉えたキャンペーンやチラシ等を活用した啓発活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の指導主事等研究協議会において、県における推進事項の一つとして自転車乗車時のヘルメット着用を掲げ、各市町村に指導を依頼した。 ・茨城放送ラジオ番組「みんなの教育」において自転車乗車時におけるヘルメット着用を心がけるよう呼びかけを行った。（5月、6月、7月、8月） ・各高等学校のPTA総会時に、保護者に対してヘルメット着用を強く推奨するよう依頼した。（県において保護者向け配布資料を作成） ・県及び各地区の高等学校PTA連合会総会において、保護者の代表に対しヘルメット着用への協力を依頼した。（5月～6月） ・8月に実施した安全教育指導者研修（動画視聴）において、自転車の安全な利用等について、専門家による講義を行った。 ・各学校において交通安全教室や交通安全講話を実施し、ヘルメット着用の重要性等について指導している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の指導主事等研究協議会において、県における推進事項の一つとして自転車乗車時のヘルメット着用を掲げ、各市町村に指導を依頼した。 ・茨城放送ラジオ番組「みんなの教育」において自転車乗車時におけるヘルメット着用を心がけるよう呼びかけを行った。（5、6、8、9、11、12、1月） ・高校生のヘルメット着用率について調査し、結果と共にチラシを作成し、生徒の一人一台端末への配信や校内掲示に活用できるようにした。。 ・各学校において交通安全教室や交通安全講話を実施し、ヘルメット着用の重要性等について繰り返し指導している。 	B
		<ul style="list-style-type: none"> ・高校生のヘルメット着用率の向上が課題であることから、1月に実施予定の高等学校教育研究会生徒指導部研修会及び県高等学校PTA連合会生徒指導中央大会の他、メールや通知文等において、着用の重要性を伝え、着用率の向上を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・1月に実施予定の高等学校教育研究会生徒指導部研修会において、ヘルメット着用の重要性を伝える等、高校生のヘルメット着用率の向上を図っていく。 		

目標3 自転車事故のない安全で安心な社会の実現

A:計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B:計画どおり取組ができていますが、十分な成果が出ていない

2024年12月1日時点

	措置	実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果 (下段) 課題・今後の方向性			
			2023	取組評価	2024	取組評価
5	自転車を利用する県民に向けて、自転車損害賠償保険等の努力義務化に関する周知、加入促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 県広報紙やSNS等を活用し、広報・啓発活動を実施する。 交通安全教室やイベント等において、自転車損害賠償保険等への加入促進のための広報・啓発活動を実施する。 県と一体となった取組の推進について市町村へ働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> HPやSNS（県公式ツイッター）における定期的な情報発信 県広報紙「ひばり5、12月号」における普及啓発 県職員向けの自転車保険加入促進のための広報啓発（5月、10月）。 	A	<ul style="list-style-type: none"> HPやSNS（県公式XやInstagram）における定期的な情報発信 県広報紙「ひばり5、12月号」における普及啓発 県職員向けの自転車保険加入促進のための広報啓発（5月）。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 今後もHPやSNS、メールや広報誌等を活用して普及啓発を図り、加入率の向上を目指す。 チラシ等を活用しながら、自転車保険の加入促進を呼びかける（10月）。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後もHPやSNS、メールや広報誌等を活用して普及啓発を図り、加入率の向上を目指す。 県職員向けにチラシ等を活用しながら、自転車保険の加入促進を呼びかける。 		
6	茨城県国土強靱化計画の内容を受け、災害時の活用に備えた、既存の県施設における駐輪場の維持管理を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 国の国土強靱化基本計画を踏まえ、茨城県国土強靱化計画を改定し、災害時における自転車の活用方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城県国土強靱化計画の改定（R4年3月）に際して、「災害時における自転車活用の推進」を取り入れており、その活用方を検討した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「災害時における自転車活用の推進」については、茨城県国土強靱化計画の改定（R4年3月）の際に取り入れている。 県有施設の駐輪場については、県庁本庁舎等で整備済みであり、適切な維持管理を行った。 	B
			<ul style="list-style-type: none"> 交通遮断時の帰宅困難対策や現地調査等における自転車の活用方を検討する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 実際の災害時の自転車活用のためには、例えば帰宅困難者の方に十分な数のレンタサイクルが確保できるか、公営だけでなく民間のレンタサイクル事業者からも協力が得られるかなど、調整を要請する課題が多いことから、引き続き関係各課を含め、実現に向けた検討を行う。 県有施設の駐輪場については、引き続き、適切な維持管理を行う。 	

目標4 自転車を活用した県民の健康増進と環境対策

A:計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B:計画どおり取組ができていないが、十分な成果が出ていない
 C:計画どおりの取組ができていない。

2024年12月1日時点

	措置	実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果			
			(下段) 課題・今後の方向性			
			2023	取組 評価	2024	取組 評価
1	企業の自転車通勤制度導入を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 国が進める「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクトを県内企業に対しても周知し、企業の自転車通勤制度導入促進に向け働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状では国の制度について周知を行ったのみで、直接的な働きかけはできていない。 今後の具体的な働きかけ方法について、検討していく必要がある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 7/23につくば霞ヶ浦りんりんロード利活用推進協議会PR誘客部会を開催し、自転車通勤制度導入促進について会員（企業）に働きかけた。 今後開催予定の協議会において、自転車通勤制度導入促進について会員（企業）に働きかけていく。 	B
2	県民の自転車利用促進を啓発する自転車月間等におけるイベント実施や取組を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 県民への自転車活用を普及・啓発するイベントを開催する。 県事業と連携した取組を市町村・民間企業・団体へ働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 奥久慈里山ヒルクライムルート及び大洗・ひたち海浜シーサイドルートの両協議会が主催するサイクリングイベント「いばらき漫遊ライド」を開催し、県内市町村、企業と連携してルートの普及・啓発に取り組んだ。 奥久慈里山ヒルクライムルート、大洗・ひたち海浜シーサイドルートの魅力をより強くPRするイベントを開催し、県民への自転車活用普及・啓発に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アフターデスティネーションキャンペーンに合わせた事業の一環として、県内ルートを周遊することで県産品等がもらえるキャンペーン「いばらき漫遊ライド2024」を開催し、県内市町村、企業と連携してルートの普及・啓発に取り組んだ。 つくば霞ヶ浦りんりんロード、奥久慈里山ヒルクライムルート、大洗・ひたち海浜シーサイドルートの魅力をより強くPRするイベントを開催し、県民への自転車活用普及・啓発に取り組む。 	A

(ライフステージ別自転車安全教育・啓発)

A: 計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B: 計画どおり取組ができていないが、十分な成果が出ていない
 C: 計画どおりの取組ができていない。

2024年12月1日時点

No.	措置	実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果			
			(下段) 課題・今後の方向性			
			2023	取組評価	2024	取組評価
1	社会人※子育て世代 安全教育	保護者向けの交通安全教室	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児や児童を対象とした交通安全教室に同席した保護者に対し、子供の特性や交通安全教育において保護者が果たすべき役割等について指導を実施した。 ・保護者を同席させる交通安全教育を増やしてもらうよう学校や幼稚園等に働きかけていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代合同による交通安全教室を実施し、子供の特性や交通安全教育において保護者が果たすべき役割等について指導を実施した。 ・引き続き、多世代型の交通安全教育の実施について学校や幼稚園等に働きかけを行う。 	A
2	全世代※幼児は重点 安全教育	参加型・体験型の交通安全教室	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車シミュレーターによる交通安全教室を開催し、交通ルールの遵守と交通マナーの向上など交通安全意識の高揚を図った（9学校で実施、3企業、1教育委員会、1市役所、1交通安全母の会に貸出。合計1回活用）。 ・様々な機会に参加型・体験型の交通安全教室を効果的に展開し、交通安全意識の高揚を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車シミュレーターを貸し出し、交通ルールの遵守と交通マナーの向上など交通安全意識の高揚を図った（1企業、1小学校、2市に貸出）。 ・様々な機会に参加型・体験型の交通安全教室を効果的に展開し、交通安全意識の高揚を図る。 	A
3	全世代※幼児は重点 安全教育	交通安全のチラシや啓発品	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室で自転車安全利用のチラシや反射材等を配布した。 ・効果的なチラシや啓発品を配付し、広報啓発のために有効利用していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室で自転車安全利用のチラシや反射材等を配布した。 ・引き続き、交通安全教室等でチラシや啓発品を配付し、交通安全啓発のために有効利用していく。 	A
4	全世代※幼児は重点 安全教育	交通安全教育のDVDの貸出し	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の安全に関するDVDを水戸市等に貸し出しを行った。 ・自転車の安全利用に関するDVD等を各市町村等への貸し出しを継続して実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車を含む交通安全に関するDVDを市町村や企業に対し貸し出しを行った。 ・自転車安全利用に関するDVDの各市町村等への貸し出しを継続して実施する。 	A
5	全世代※幼児は重点 安全教育	自転車シミュレーターによる交通安全教室	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や企業等において自転車シミュレーターを活用した交通安全教室を開催した。 ※9学校で実施、3企業、1教育委員会、1市役所、1交通安全母の会に貸出。合計1回活用。 ・危険予測・回避トレーニングを実践的に学習できる自転車シミュレーターを活用した交通安全教室を継続的に開催。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車シミュレーターを貸し出し、交通ルールの遵守と交通マナーの向上など交通安全意識の高揚を図った（1企業、1小学校、2市に貸出）。 ・危険予測・回避トレーニングを実践的に学習できる自転車シミュレーターを活用した交通安全教室を継続的に開催。 	A
6	全世代※幼児は重点 安全教育	各市町村に対し、様々な研修会等を通して、通学路安全マップの作成を依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の指導主事等研究協議会において、各小学校に配付している「通学安全リーダーハンドブック」を活用するなどして、通学路安全マップを作成するよう依頼した。 ・8月に実施した安全教育指導者研修における資料において、効果的な交通安全教育の一つとして、安全マップの作成を紹介した。 ・2月に開催予定の指導主事等研究協議会において、マップ作成について再度市町村に働きかけていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の指導主事等研究協議会において、各小学校に配付している「通学安全リーダーハンドブック」を活用するなどして、通学路安全マップを作成するよう依頼した。 ・8月から実施した安全教育指導者研修における資料において、効果的な交通安全教育の一つとして、安全マップの実践例を紹介した。 ・2月に開催予定の指導主事等研究協議会において、マップ作成について再度市町村に働きかけていく。 	A

(ライフステージ別自転車安全教育・啓発)

A: 計画どおり取組ができており、期待どおりの成果が出ている
 B: 計画どおり取組ができていないが、十分な成果が出ていない
 C: 計画どおりの取組ができていない。

2024年12月1日時点

措置		実施内容	(上段) 主な取組実績・取組成果			
			(下段) 課題・今後の方向性			
			2023	取組 評価	2024	取組 評価
7	幼児 中学生 ※ 幼児 は 重点	各市町村に対し、交通安全教室の開催に向けた働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> 県内全公立学校職員に配付される「令和5年度学校教育指導方針」における「学校健康教育の充実」の具現化のための取組として「各学年の実態に応じた交通安全教室の開催」を掲げ、4月の指導主事等研究協議会において、各市町村に取り組んでもらうよう依頼した。 8月の安全教育指導者研修において、教習所と連携した交通安全教育などの実践事例を紹介した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 県内全公立学校職員に配付される「令和6年度学校教育指導方針」における「学校健康教育の充実」の具現化のための取組として「実践的・体験的な交通安全教室の開催」を掲げ、4月の指導主事等研究協議会において、各市町村に取り組んでもらうよう依頼した。 8月からの安全教育指導者研修において、自転車シミュレータやスクエアドストレイトを用いた交通安全教育などの実践事例を紹介した。 	A
			<ul style="list-style-type: none"> 引き続き交通安全教室の開催について働きかけていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き交通安全教室の開催を働きかけていく。 	
8	社会人 ※ 子育て 世代	各市町村に対し、保護者も交えた交通安全教室の開催に向けた働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> 4月の指導主事等研究協議会において、学校における交通安全指導のポイントの一つとして、保護者も交えた交通安全教室の開催を依頼した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 4月の指導主事等研究協議会において、学校における交通安全指導のポイントの一つとして、保護者も交えた交通安全教室の開催を依頼した。 モデル校のスクエアドストレイト交通安全教室に希望する保護者にも参加していただいた。 	A
			<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、指導主事等研究協議会や学校訪問の際に、保護者を交えた交通安全教室の開催を働きかけていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校訪問の際に、保護者を交えた交通安全教室の開催を働きかけていく。 	
9	普及 啓発	自転車損害賠償責任保険加入促進のための広報・啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> HPへの掲載。 SNS（県公式ツイッター）における定期的な情報発信 県広報紙「ひばり5月、12月号」における普及啓発 	A	<ul style="list-style-type: none"> HPへの掲載。 SNS（県公式X、Instagram）における定期的な情報発信 県広報紙「ひばり4月号」における普及啓発 	A
			<ul style="list-style-type: none"> HPやSNSにおける情報発信やメールや広報誌等における広報媒体を活用して普及啓発を図り、加入率の向上を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> HPやSNSにおける情報発信やメールや広報誌等における広報媒体を活用して普及啓発を図り、加入率の向上を目指す。 	